

【団長挨拶】

本日は年末の御多忙の中当演奏会に御来場頂き誠にありがとうございます。この演奏会は横浜市大倉山記念館指定管理者 相鉄共同事業体様の御助力で今年7月に第1回を開催し今回は第2回目の開催となります。参加する団員数も前回より7名増加し、次第に規模が拡大しつつあります。今回は前半に古典近代もの後半にバッハの作品を揃えました。ふだんなかなか皆様の前では演奏出来ない曲にそれぞれが熱心に取り組みました。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

港北区民響楽団 団長 富山辰夫



【プログラム内容】

■ エルウィン・シュールホフ フルート、ヴィオラとコントラバスのためのコンチェルティーノ

＜メンバー紹介＞

フルートから「いい曲があるんだけど」と無理矢理誘われた弦の2人。こんな曲だと知らずオケでは普段やらないような激しい弾き方を要求され、練習ではいつも涙目。今日ははじけることができるかしら・・・？ 大槻郷子(FI) 瀬戸満寿美(Vla) 斉藤恵(Cb)

＜曲目紹介＞

エルウィン・シュールホフは1894年ブラハに生まれた作曲家です。ドボルザークに推薦されてブラハ音楽院に進み、ピアニストになりました。ユダヤ系の血をひいていたためにナチスドイツに迫害され、1942年に強制収容所にて48歳の若さで結核で亡くなりました。この曲は1925年作、本日のプログラムの中では唯一、20世紀に作曲されたものです。またフルート・ヴィオラ・コントラバス、という編成も非常に珍しい曲です。

第1楽章 Andante con moto ヴィオラとコントラバスが静かに同じフレーズをリフレインする中、フルートがどこか東洋の香りを感じさせるメロディーで入ってきます。

第2楽章 Furiant フルードがピッコロに持ち替えて登場します。ボヘミアの民族舞踊を想起させる5/8拍子。聴いていると座りが悪くおしりがモゾモゾします。

第3楽章 Andante 同じメロディーが時には1本、あるいは2本、3本同時に、会話するように何度も出てきます。なにしろ高低差のある楽器3本ですのでなかなか同じに聴こえるようにならず苦心惨憺しました。本日の出来はいかに？

第4楽章 Rondino 弦楽器の印象的なffではじまり、3本の楽器がそれぞれまったく別の動きをしながら曲を紡いでいきます。中間部ではヴィオラの両手ピツィカートに注目！！

■ モーツァルト / 木管三重奏のためのディヴェルティメント No.5 K439b

＜メンバー紹介＞

普段は80人近い合奏をするフルオーケストラの区民響でも10人程で受け持つ木管4パートのアンサンブルは特に大切と言われ、このような室内楽発表の機会にアンサンブルを意識しよう、と年代の差を気にせず誘い合わせました。

上原布紗子(Fg:20代) 鈴木章代(Cl:30代) 村井成(Ob:60代)

＜曲目紹介＞

ディヴェルティメントはセレナードとも呼ばれる夜会用の気楽な室内楽です。元々は3本のバセットホルン(クラリネット系の古楽器)のために書かれたと言われる5曲の作品で、どの曲も色合いの変化巧みな5楽章の構成です。現代では高音の1本をオーボエかフルートに置き替えることも多く、ここではオーボエ、クラリネット、ファゴットの組合せで演奏します。軽快なアレグロで始まりロンドを終曲とするパターンが多い5曲の中ではやや異色の構成で、おだやかなアダージョで始まる自由な組曲です。

第5番はAdagio-Menuetto-Adagio-Polonaise-Romanzeの順に演奏されます。



■ ベートーベン / クラリネット三重奏 第4番 変ロ長調 作品11 《街の歌》

＜メンバー紹介＞

年齢順に名前の頭文字を取って「TSNトリオ」・・・たのしく、すてきな、なかよし3人組、絶妙なアンサンブルを目指します♪ 佐藤紀子(Cl) 富山辰夫(Vc) 渡部智子(Pf)

＜曲目紹介＞

バイオリンで演奏されることの多いトリオですが、クラリネットでの演奏がオリジナルで、ベートーベン初期の作品です。

第1楽章 allegro con brio：躍動感あふれ、各ソロ楽器が入れ代り活躍します。

第2楽章 Adagio：美しい旋律、暖かい響きの緩徐楽章

第3楽章 Allegretto：このバリエーションのテーマが副題《街の歌》の由来となっており、多彩な展開を見せます。

全楽章通して明るく喜びに満ちた楽想です。

■ J.S.バッハ / ブランデンブルク協奏曲第6番 より 第1楽章

＜＜メンバー紹介・・・草津の仲間たち＞＞

草津にあるH氏の別荘に集まって室内楽を楽しむ仲間でご構成されています。

砂田俊彦(ヴィオラ・ダ・ブラッチョⅠ), 林俊雄(ヴィオラ・ダ・ブラッチョⅡ)

田村邦夫(ヴィオラ・ダ・ガンバⅠ), 三毛ふみの(ヴィオラ・ダ・ガンバⅡ)

富山辰夫(チェロ)、小杉茂次(ヴィオローネ)

＜＜曲目紹介＞＞

ブランデンブルク辺境伯に献呈された6曲の合奏協奏曲の6番目。編成は2挺のヴィオラ・ダ・ブラッチョ（腕のヴィオラ：現代における普通のヴィオラ）、2挺のヴィオラ・ダ・ガンバ（膝のヴィオラ：本日はチェロで代用）、チェロ、ヴィオローネ（大きなヴィオラの意：本日はコントラバスで代用）で、ヴァイオリンなどの高音楽器が無い極めて変則的な編成です。協奏曲という名前だが独奏楽器と伴奏楽器の区別は殆どなく、第1楽章は2挺のヴィオラ・ダ・ブラッチョが半拍ずれたカノンによって旋律を奏でます。旋律そのものは起伏が少なく極めて地味です。

■ J.S.バッハ / 管弦楽組曲第一番 BWV1066

＜＜メンバー紹介＞＞

BACHの管弦楽組曲を演奏してみたいと手を挙げてくれたメンバーです。

笹原伸雄, 佐々木史郎(1stVn)、兵藤安依加, 高橋さおり(2ndVn)

後藤庸子, 瀬戸満寿美(Vla)、河本計三(Vc)、水橋恵津子, 佐藤陽介(Ob)、松本由佳子(Fg)

＜＜曲目紹介＞＞

管弦楽組曲は当時は「序曲」と呼ばれていたようです。だからでしょうか、この1番についても、1st violinの楽譜全5頁中2頁を1曲目のOverture(序曲)に費やしています。残りの3頁を6つの曲で分け合っています。その6曲は、いろいろな拍子からなる素朴な舞曲の集まりです。田舎で、民族衣装をまとい踊っている光景が思い浮かばれるかもしれません。本日はチェンバロが加わりませんが、木管と弦とのハーモニーで楽しんで頂けると幸いです。

序曲	Overture	4/4拍子
第一曲	Courante (クーラント)	3/2拍子
第二曲	Gavotte (ガボット)	2/4拍子
第三曲	Forlane (フォルレーヌ)	6/4拍子
第四曲	Menuet (メヌエット)	3/4拍子 弦のみの演奏あり
第五曲	Bourre (ブーレ)	2/4拍子 木管のみの演奏あり
第六曲	Passepied (パスピエ)	3/4拍子

港北区民交響楽団 室内楽コンサート Vol.2



シュールホフ / フルート、ビオラ、コントラバスのためのコンチェルティーノ

モーツァルト / 木管三重奏のためのディベルティメント No.5 K439b

ベートーベン / クラリネット三重奏曲 Op.11 「街の歌」

バッハ / ブランデンブルグ協奏曲第6番から 第1楽章

バッハ / 管弦楽組曲第1番 BWV1066

2011年12月18日(日) 14:00 開演

於 横浜市大倉山記念館 ホール

主催：港北区民交響楽団

共催：横浜市大倉山記念館

港北区民交響楽団 今後の公演のご案内
第49回定期演奏会 2012年1月22日(日) みなとみらいホール
田部井剛指揮 ラフマニノフ交響曲第2番 他